



添中だより

学校だより No.3
令和7年6月25日(水)
添田町立添田中学校
文責 長畑 理恵

晴耕雨読のすすめ



今年も梅雨入りしました。
今年は空梅雨かな?と思う時期もありましたが、今週に入り雨続きですね。毎年のように豪雨による被害が報じられるだけでなく、線状降水帯の発生など、これまでとは異なるレベルでの災害が続いていますので油断はできません。どれだけ準備をしても「もう何があっても大丈夫!」と安心することはできません。雨による被害だけでなく、熱中症にも警戒する必要があります。しっかりと水分補給をし、災害からも暑さからも自分の身を守るようにしましょう。

「晴耕雨読(せいこううどく)」とは、晴れた日には田畑を耕し、雨の日には家にこもって読書をすることで悠々自適の生活を送るということを意味しています。梅雨のこの時期にピッタリではないでしょうか。様々な考え方やとらえ方がありますが、本を読むことで、世界を知り、深く物事を考えることができるようになります。深く考えることは、豊かな人生をつくることにつながります。そして何よりも楽しいと思います。

しかし、中学校では、新しい校舎になり日当たりのより素敵図書室が備わっているのに、じっくりと利用する時間が取れないのが現実です。そこで、自分たちのタブレットでたくさんの本が読めるよう、「school e-Library」のカードを配付し、お昼の放送で図書部から「活用しましょう!」とお知らせがあったところです。

本が身近にある生活をつくり、子供たちに本を読む習慣を身につけさせるためには、ご家庭の力が必要です。これを機会にご家庭で一緒に読書をする時間をとってみませんか。前号でも書きましたが、本には力があると思います。私が、「本には不思議な力がある」と感じるようになり始めたのは、教員になって10年を過ぎた頃だったと思います。実は子供の頃は、漫画も含め全くと言っていいほど本を読まない子でした。学生時代は、試験のための課題図書を渋々読む程度。読み慣れていないので、1冊を読み終えるのに人の倍以上かかっていたと思います。ところが教員になり、学級文庫を子どもたちと読んだり、読書好きの子供と話をしているうちに「本っていいな。すごいな。」と思うようになりました。

本の中の世界は、自分の生活している現実社会ではありません。だからこそ、本を自分で読んだり、読み聞かせてもらっているときには、心の中で自分との対話が生まれるのではないのでしょうか。「あの時、ぼくも同じ気持ちだった。この主人公は、こういう解決を考えたんだな。ぼくならこうするな…」というような本との対話を通じて、子どもは、自分のことも考えていくようになっていきます。

ここ数年は、絵本を読むこと、集めることにはまっています。校長室にもたくさんの絵本を持ち込んでいますので、機会があれば子供たちにも読んでほしいと思っています。そこで…職員室近くにお勧めの本を置いてみようと考えています。生徒の皆さんだけでなく、保護者の皆さんもぜひ手に取って読んでみてください。

自分で学ぶ、みんなと学ぶ

1学期も残り一ヶ月となりました。それぞれの教室では、生徒が主体的に学ぶ「生徒が主役」になる授業に取り組んでいます。先生の質問に、自分で答えたり、友達の答えを聞いて、どんどん考えを広げていったり少しずつ上手くできるようになっている1年生。先輩でもあり、後輩でもある複雑な立場に戸惑いながらも、自分たちのなすべきことにしっかりと取り組もうとしている2年生。自分に合った勉強の仕方を見つけられず苦戦していたけど、友達の様子を見て参考にしたり、先生にアドバイスをもらったりして、少しずつ自分のスタイルを見つけている3年生。また、3年生は、進路学習や高校説明会があったり、進路希望調査があったりと自分の将来・進路に向けて真剣に考え始めと生徒も多いようです。

夏の大会に向け、「短期集中」、部活の時間にしっかりと練習を重ね部員一丸となって頑張っている部活動生。

各学年それぞれに本当によく頑張っていると思います。

到達度テストの前3日間には、今年度初の試みである「添学タイム」を設定し、放課後に残って学習できるようにしてみました。半数以上の生徒が参加をし「勉強がはかどった」や「わからないところをすぐに教えてもらえるので良かった」などの感想を寄せてくれています。

学びの形はさまざまですが、一人一人がしっかりと考えること、そして一人一人が誰かと一緒に考える(学ぶ)ことで、自分もできるようになりたい、できるようになった、学んでよかったと思えるようになることが今の学習の基本なのです。先生から教えられることを黙って聞くだけでなく、一人一人が自分で学ぶ、みんなと学ぶ、主体的に学びを深めていく。添田中学校では、そんな「生徒が主役の学び」を大切にしています。



【3年生添学タイムの様子】

ごしきのたんざく

7月7日は七夕です。

今年も街のあちこちで願い事を書いた短冊が飾られることでしょう。

もしかしたら、自宅でも七夕飾りをしているかもしれませんね。

では、なぜ短冊に願い事を書くようになったのかを知っていますか?

昔の人が、織物の上手な織り姫のように(織り姫にあやかっ)、物事が上達しますように」と願い事をしたのが始まりだと言われています。

笹の葉に飾ると、織り姫と彦星の力で願いが叶えられたり、みんなを悪いものから守ってくれるという言い伝えがあるそうです。

